

お年寄り と 子どものふれあいで町を元気に！



はじめに

今の日本は近所のコミュニケーションの希薄化が進む

- ・ 隣に住む人の名前、顔を知らない
- ・ 会っても挨拶をしない など



- ・ 何かあったときに近くに頼る人がいない
- ・ 助けを求められない

お年寄りと子どもたちの交流を深め、子どもを孫のよう可愛がり、お年寄りをおじいちゃんおばあちゃんのように慕う関係を作るため

“**繋がる会**” を設立する！



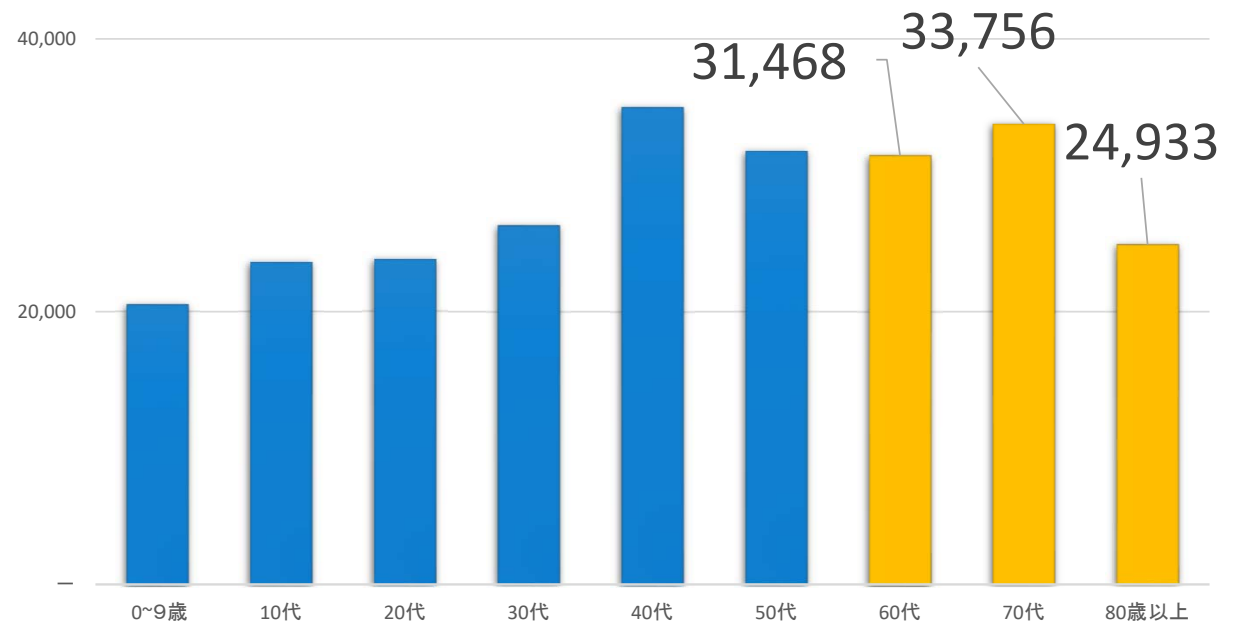
現状分析

① 八幡西区の人口について

・ 令和2年の北九州市の人口は約95万人で、その内27%にあたる約25万人が八幡西区で暮らしている。

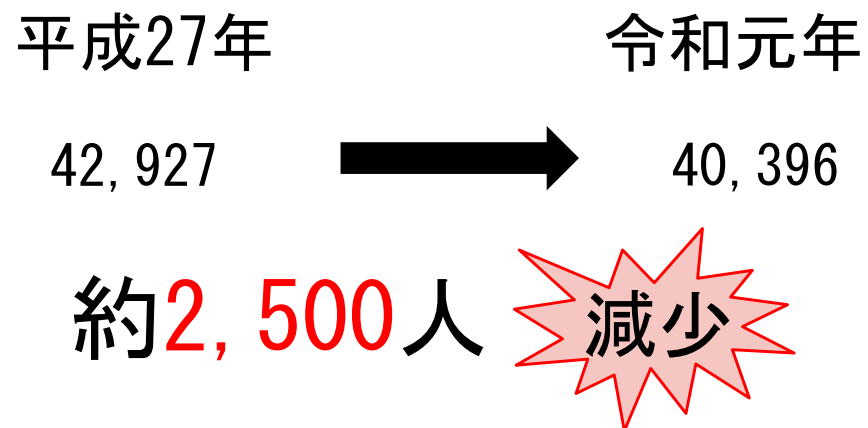
・ 区民の30%あたる約7万5000人がお年寄りである。

令和2年 八幡西区年代別人口

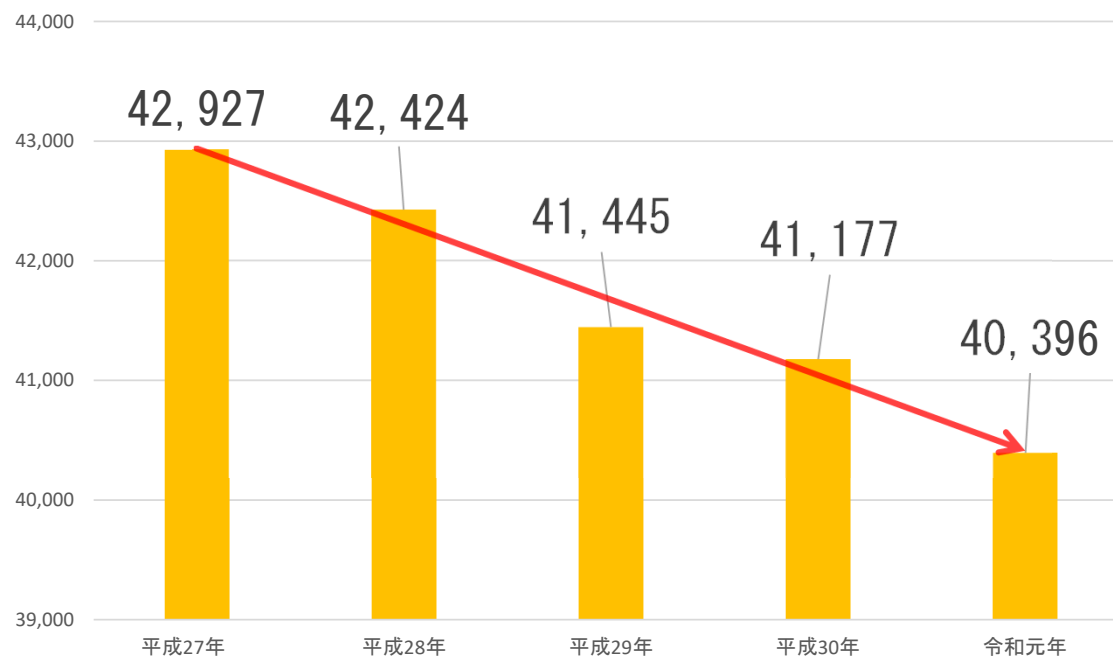


住民基本台帳より

・八幡西区の子ども人口は



八幡西区子ども人口
※子ども人口=18歳未満人口



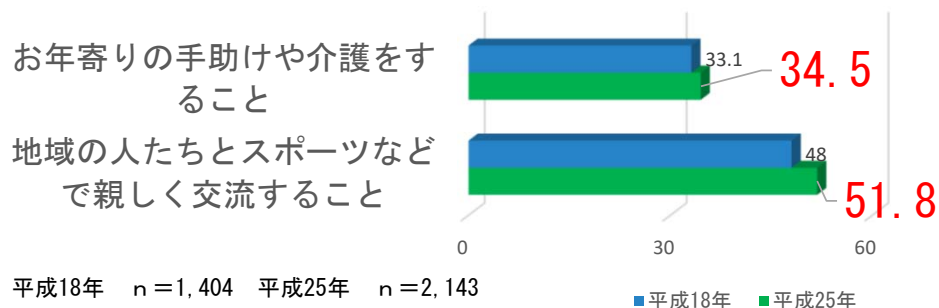
住民基本台帳 より

②住民の交流意欲について

【小・中学生】

- ・ 地域住民との交流を求めている人
→**51.8%**
- ・ 平成18年と25年を比較すると交流意欲が**増加**

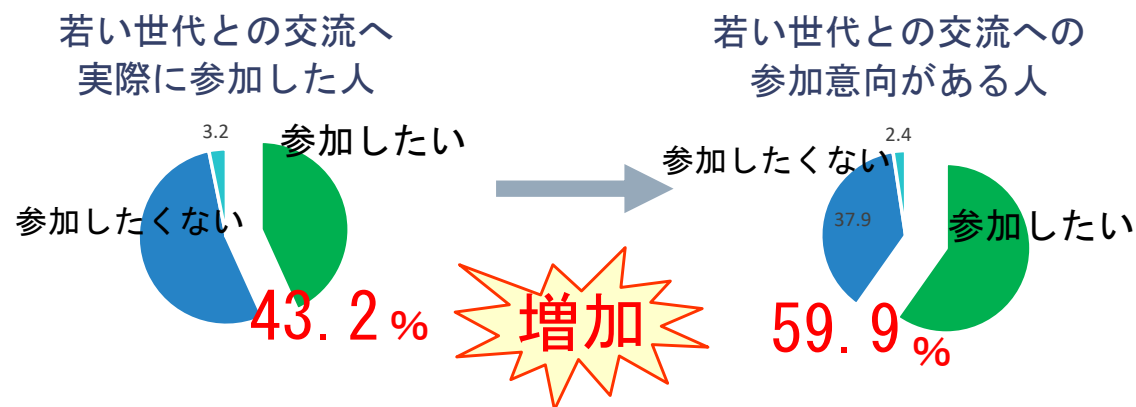
様々な活動の参加意向



平成25年度 内閣府 小学生・中学生の意識に関する調査

【お年寄り】

- ・ 若い世代との交流意欲がある人→**59.9%**
- ・ 若い世代との交流へ参加したことがある人
→**43.2%**



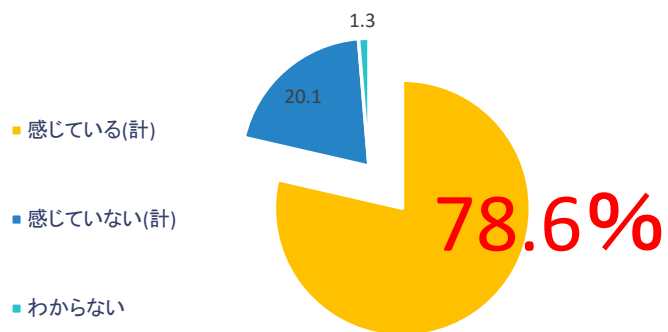
平成25年 内閣府 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査

③お年寄りの生きがいについて



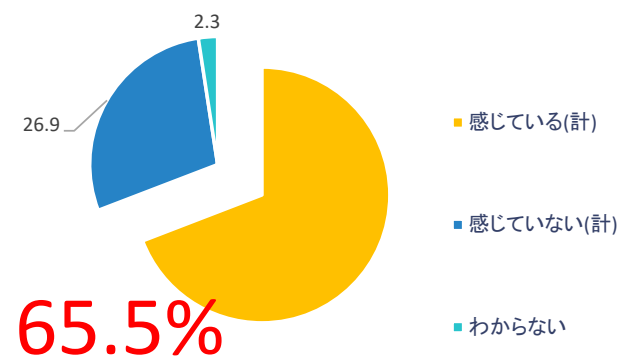
お年寄りの生きがいが減ってきている！

平成21年 どの程度生きがいを感じているか



平成26年 どの程度生きがいを感じているか

13.1ポイント 減少



平成26年 内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」より

問題点

- ①参加意欲のある高齢者がいるのに、住民交流の場がない。
- ②子どもと地域の人たちとの交流の機会がない。
- ③お年寄りの生きがいがない。

課題

【子供が地域の人と親しく】
なれる場を設ける。

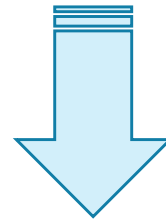
お年寄りの【生きがい】をつくる。

【現状】

人と人との関わり合いが薄く、
地域コミュニティが衰退

【理想】

子どもとお年寄りが関わり合い
その町全体が活気にあふれる

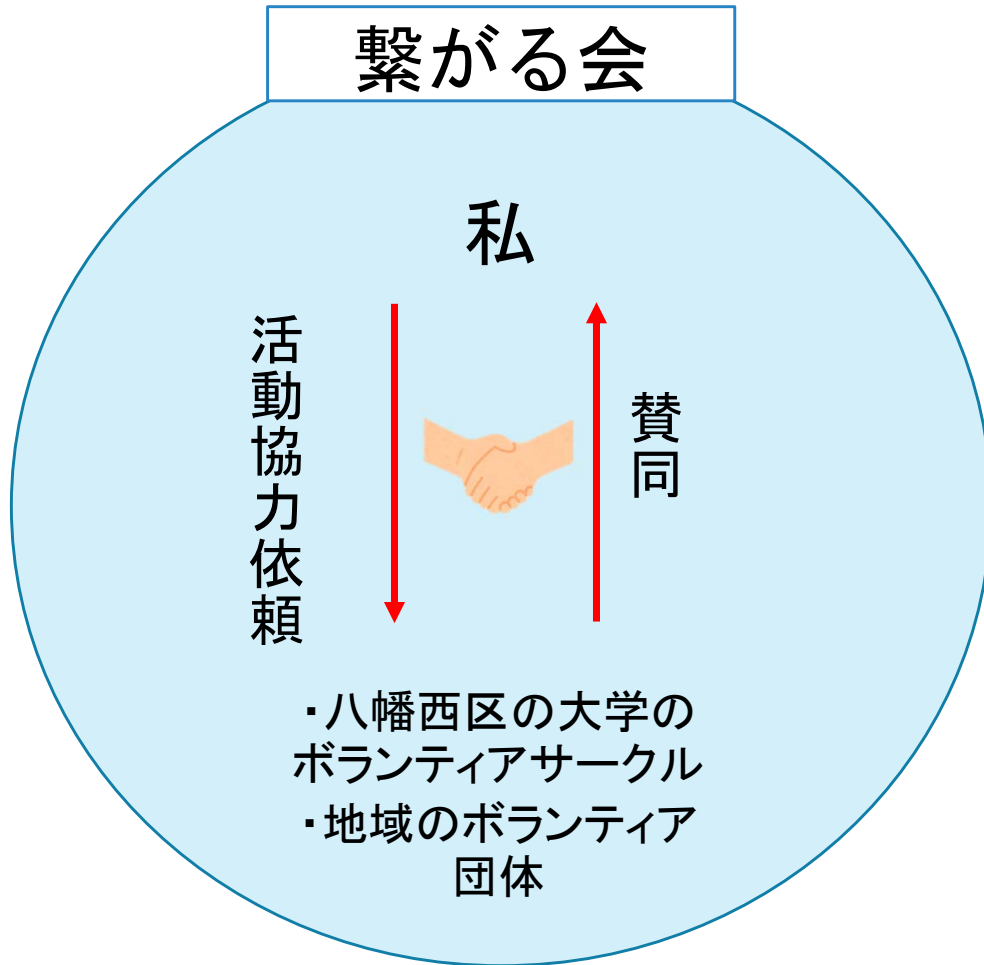


子どもとお年寄りを繋げ、交流の手助けする

繋がる会

をつくる

【繋がる会について】



目的

☞ 地域コミュニティの活性化

運営メンバー

☞ 私

☞ 賛同してくれたボランティア団体

活動内容

☞ 八幡西区の町内会に活動の提案を行い承認が得られればと町内会と連携し、子どもとお年寄りの交流を促す。

対象

☞ 八幡西区の町内会(老人会・子ども会)

繋がる会

評価・改善点

実行



お年寄り・子ども

PDCAサイクル

お知らせ(回覧板にて)



報告

(計画)提案・承認

・昔の遊び

(お手玉やかるた)

・軽い運動

(ゲートボールやウォーキング)

町内会



お年寄り



子ども



食事を一緒に

何度か活動を行ったのち

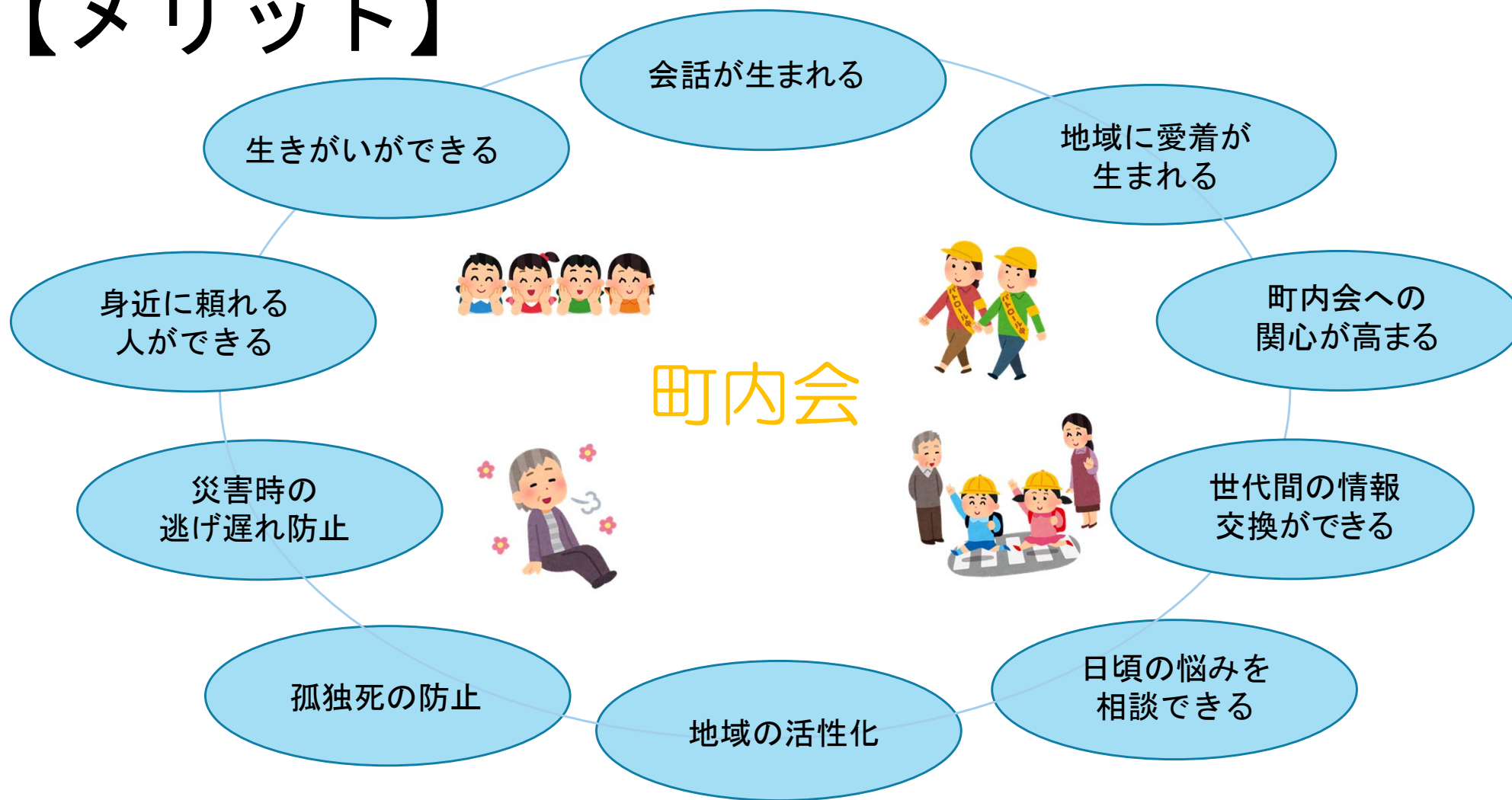
料理を一緒に

お年寄り宅での活動も開始！

👉 より身近な存在になり気遣いあう関係に！

※子どもの両親も参加に協力することで町全体が知り合いに！

【メリット】



【これからの課題】

- ・ 資金源の確保
- ・ 住民の活動開始時期により、隔たりが生じる可能性がある事
- ・ 自宅訪問の際に、プライバシーには細心の注意を払わないといけない事
- ・ 子ども会がなくなっている地域もある事
- ・ 現状、回覧板での広告方法しかない事

おしまい

ご清聴ありがとうございました